

第16回 YMFS セーリング・チャレンジカップ IN 浜名湖

- 期間／2008年3月21・22・23日 ●会場／静岡県立三ヶ日青年の家（静岡県浜松市）
- 共同主催／(財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)、NPO 静岡セーリング連盟
- 参加艇／ミニホッパー級：12艇、SR級：18艇、FJ級：16艇

生まれ変わったジュニアチャンピオンレガッタ

毎年、春休みの第1週に開催されている「ジュニアチャンピオンレガッタ」が、第16回を迎える今大会から「YMFS セーリング・チャレンジカップ in 浜名湖」と名称を変え、装いも新たとなりました。

この時期は選抜高校野球や春の高校バレーなど、高校スポーツの全国大会が各地で開催される時期で、今大会の前身である「ジュニアチャンピオンレガッタ」もセーリング競技の選抜大会的役割を担ってきました。特に、シングルハンダー(一人乗り)種目における高校生の全国レベルの大会が少ないこともあり、この大会は国体に次ぐ大会として位置づけられてきました。そうした背景から、この大会に出場した選手の中からは、飯島洋一選手(北京五輪セーリング競技レーザー級日本代表)をはじめ、数多くの名選手が育っています。

「YMFS セーリング・チャレンジカップ in 浜名湖」は、ジュニアセーリング界におけるその重要な位置づけを受け継ぎつつ、単に勝敗だけを競うレガッタに留まらず、セーリングにおける指導方法や技術向上に貢献するため、様々な試みを実験的に行っていくことになりました。

その手始めとして行われたのが、レースの様相を陸上と海上から丹念に撮影し記録として残すこと。それらはリアルタイムで大画面モニターに映し出され、陸上待機する父兄や関係者に伝えられました。さらに、それらの素材を今後の指導に活かせる教材として編集したものをDVDとして参加クラブに配布しようという取り組みが行われました。

YMFS(財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団)の設立主旨の一つである、「スポーツにかかわる教育／研究活動の促進」に沿った大会運営によって、全く新しい形のレガッタイベントが誕生しました。

五輪代表選手による講演

今大会には、先の代表選考会で熾烈な予選を勝ち抜き、北京五輪日本代表の座を勝ち取った日本のトップセーラーたちが招かれ、大会初日のレース後に講演会が行われました。

招かれたのは、レーザー級代表の飯島洋一選手と、470級男子代表の松永鉄也／上野太郎の両選手。講演会が行われた三ヶ日青年の家の第2研修室は、出場選手やコーチたちで満員となり、講演後に行われた質疑応答では選手たちから熱い質問が次から次へと飛び出しました。

高校時代、毎年のようにこのレースに参加していたという飯島選手は、「毎年、もの凄く寒くて、も

の凄く風が吹いたという印象です。ボクが通っていた高校にはヨット部がなかったので、この大会は同じ高校生同士で戦える数少ないレースだったんです。毎年、全国の強豪選手とレースをしたことが、今のボクの大きな財産となっています」と語りました。

また開会式では、1月にメルボルンで行われた470級世界選手権大会(兼北京五輪代表最終選考会)に出場していた選手たちからのビデオメッセージも流され、選手たちの士気を大いに盛り上げていました。

実力者たちが上位を独占

大会初日の3月21日は3～5m/sの微/軽風のなか各クラス2レースが行われました。安定しない風向とムラのある海面に苦しむ選手が多い中、ミニホッパー級の太田拓也選手(唐津市立佐志中学2年)とシーホッパーSR級の齋藤穂高選手(静岡聖光学院中学3年)は2レースともトップフィニッシュ、FJ級では女子チームの夏目真希/石田ゆうきチーム(静岡県立三ヶ日高校2年)が2-1位でそれぞれ首位に立ちました。

翌22日も午前中は2～3m/sの微風だったものの、午後からは6～7m/sのセーリングに絶好な風が吹き始め、午前中に第3レース、午後には第4～6レースが行われました。

圧巻だったのはシーホッパーSR級の奥村航選手(兵庫県立御影高校2年)。午後に行われた3レース全てでダントツのトップフィニッシュを決めて、一気に首位の座に駆け上りました。「5m/s以上の風なら勝つ自信がありました」と語る奥村選手は、2005年の第13回大会で中学2年生時にシーホッパーSR級で優勝、その後、高校1年時には兵庫国体で優勝した実力の持ち主。身長180cm、体重72kgという体格のため、さすがに初日の軽風

では苦しんだようです。FJ級の伊東洋伸/久米速人チーム(静岡県立三ヶ日高校2年)も、午後の3レースでオールトップをとっての逆転首位。ライバルと見られていた熱海高校の永沼俊貴/岩井光チームを抑えて首位に立ちました。スキッパーの伊東選手は地元浜名湖ジュニアの出身で、ミニホッパー級やシーホッパーSR級での出場経験もあります。

ミニホッパー級では初日に首位に立った太田選手が同じ玄海セーリングクラブの國政真平選手(唐津市立第一中学2年)との接戦を制して首位を守りました。

最終日の23日は風が安定しなかったため、予定の最終レースはキャンセル。前日までの順位が最終成績となりました。

新たなスタイルを模索して

ここ数年、春休みの時期にジュニア/ユース選手を対象にしたレガッタが各地で開催されるようになったこともあり、本大会への参加者数は減少傾向にあります。

春休みのレガッタというニーズを掘り起こした本大会は、新たな役割を担うべく、いま全く新しいスタイルのレガッタの構築を模索しているところです。

映像メディア等の技術力をフルに活用することで、レガッタそのものを徹底的に解析し、新たな指導方法の確立や、技術論および参加選手のレベルアップの目標設定に貢献しようという試みもその一つ。この浜名湖で、どのような研究成果が生まれるのかが注目されるところです。

<上位成績>

■ミニホッパー級(参加 12 艇)

- 1位 太田拓也 玄海セーリングクラブ 唐津市立佐志中学校 2年
- 2位 國政真平 玄海セーリングクラブ 唐津市立第一中学校 2年
- 3位 吉田真一朗 玄海セーリングクラブ 唐津市立佐志中学校 2年

■シーホッパーSR級(参加 18 艇)

- 1位 奥村 航 兵庫県セーリング連盟 兵庫県立御影高校 2年
- 2位 中村光希 湘南サニーサイド JYC 桐朋高校 2年
- 3位 浅羽貴文 YMFS ジュニア葉山 三浦学苑三浦高校 1年

■FJ級(参加 16 艇)

- 1位 伊東洋伸/久米速人 静岡県立三ヶ日高校 2年
- 2位 永沼俊貴/岩井光 静岡県立熱海高校 2年
- 3位 清水滉司/金子晃也 静岡県立三ヶ日
高校 2年

■ この件に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください

■(財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS) 事務局: 担当・箱守 〒438-8501 静岡県磐田市新貝 2500 番地

Tel. 0538-32-9827 Fax.0538-32-1112 <http://www.ymfs.jp>



高校総体や国体の種目であるFJ級



五輪代表選手を招いての講演会。終了後には参加選手から多くの質問が寄せられた



ミニホッパー級優勝の太田拓也選手



シーホッパー級SR優勝の奥村航選手



FJ級優勝の伊東洋伸／久米速人選手



シーホッパー級SRは高校生が、他地域の選手と戦うことのできる数少ないチャンスとなっている

